

読書推進運動


 公益社団法人
読書推進運動協議会
 〒162-0828
 東京都新宿区袋町6
 日本出版クラブ会館内
 TEL 03(3260)3071
 FAX 03(5229)1560
 発行人 宮本 久
 編集人 片岡 伸子
 定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.594

★第47回「野間読書推進賞」推薦要項(2頁)
 ★2017年度「絵本ワールド」開催予定一覧(3頁)



絵本の可能性をさらに広げて —ちひろ美術館開館40周年—

ちひろ美術館 常任顧問

まつもと
松本
たけし
猛

1977年、いわさきちひろの自宅を半分壊して、住宅サイズの「いわさきちひろ絵本美術館」(現ちひろ美術館・東京)が開館しました。それより3年前、私の母親であるちひろが亡くなったとき、作品を見てもらえる場所をつくりたいと考えたのがきっかけでした。当初は、どこかの美術館で遺作展ができないかといろいろ動いたのですが、そのころは絵本画家の作品を美術作品と認める美術館はどこにもありませんでした。

当時、多くの人々にとつて、絵本は子どもたちにとって「お菓子がいい? おもちゃがいい? それとも絵本がいい?」という感覚のものでした。絵本に関心がある人でも、絵本は子どもの知識を増やすもの、情操教育に役立つものと考え、人がほとんどでした。ところが、絵本を描いている画家たちは、赤羽末吉にして、瀬川康雄にして、安野光雅にして、長新太にして、いわさきちひろにして、新しい表現の可能性を絵本に見出し、絵巻物に匹敵する世界を絵本は創出できる、と真剣に取り組んでいました。芸大の学生だった私自身も、ちひろの最後の作品となった『戦火のなかの子どもたち』という絵本を一緒に制作するなかで絵本表現のおもしろさに取りつかれたひとりでした。

ちひろ美術館では、絵本を絵巻物や江戸絵本の流れの上にあるものと位置づけ、マンガや映画との類似性をも意識しながら、美術としての絵本の魅力を知ってもらい、絵本とはなにかを考える場を提供したいと考えました。多くの魅力的な絵本画家を紹介しながら、美術館は少しずつ発展し、20年後の1997年には「安曇野ちひろ美術館」ができました。

ちひろ美術館を運営しながら、私は絵本の研究や評論も行うようになり、やがて内外の絵本原画展の審査員も務めるようになりました。世界の国々を見ても、絵本原画を美術作品として収蔵する美術館はほとんどなく、すぐれた作品も散逸の危機に瀕していました。ちひろ美術館が世界の絵本画家の作品の蒐集を開始したところ、世界各国の絵本画家の協力が得られ、短期間でかなりの作品が集まりました。その作品をいつでも見られる場所として、安曇野ちひろ美術館を計画したのでした。いまでこそ、公立の美術館を含めて、日本中の美術館が絵本の原画展を行うようになり、絵本専門美術館も40館近くあります。絵本は子どもの教育と結びついたものとしてだけではなく、それ自体が文化的価値を持った作品として見られるようになりました。

絵本は文学への入り口、美術への入り口という要素もありますが、この40年で、それ自体が自立したメディアとして認識されるようになりました。ちひろ美術館の大切な目的のひとつは絵本文化の発展に寄与することです。

今年、11月に開館40周年記念としてちひろ美術館・東京は「日本の絵本100年の歩み」展を開催します。絵本のさらなる発展のためには、研究や評論の充実も求められます。50周年に向けてちひろ美術館は新しい絵本の地平を切り開くために努力していきたいと思えます。

第47回(2017年度)

『野間読書推進賞』

受賞候補者推薦のお願い

公益社団法人 読書推進運動協議会は、読書の普及に貢献し、讃えられるべき業績をあげながらも、報われることの少なかつた個人および団体を顕彰してまいりました。

この賞は、1969年(昭和44年)、当協議会の社団法人設立を機会に、野間省一 講談社社長(当時)より1000万円の寄付を受け、1971年(昭和46年)に「読書推進賞」を設定、1979年(昭和54年)に講談社創業70周年記念として1000万円、1987年(昭和62年)に講談社創業80周年を記念して2000万円の寄付を受け、その基金を中心にして運営しているものです。「読書推進賞」は、1985年(昭和60年)より、「野間読書推進賞」と改めました。本年度も次に掲げる要項にしたがって、実施いたします。みなさまからのご推薦をよろしくお願いいたします。



野間読書推進賞賞牌

1 賞

賞状および賞牌

2 副賞

金30万円(団体の部)

金20万円(個人の部)

金5万円(奨励賞)

3 受賞の対象

地域や職域などにおいて、読書の普及に永年力を尽くし、読書推進運動に貢献された個人または団体。業務として読書推進に関する事業に従事する者、また学校図書館関係は除外します。

個人の場合、年齢、職業に、団体の場合、会員数、規模などに制限はありません。

過去に推薦いただいた個人や団体を再度ご推薦くださってもかまいません。

4 推薦方法

- ① 全国都道府県および政令指定都市教育委員会
- ② 都道府県中央図書館および読書推進運動協議会
- ③ 全国市町村教育委員会連合会
- ④ 日本PTA全国協議会
- ⑤ 日本新聞協会
- ⑥ 日本放送協会
- ⑦ 日本民間放送連盟

などに候補者推薦を5月中に依頼します。

受賞候補者の心当たりがある方は、これらの団体を通してご推薦ください。

これまでの受賞者一覧、昨年度の受賞者実績は、当協議会ホームページ (<http://www.dokusyo.or.jp>) でご覧いただけます。ご推薦の参考としてください。

5 推薦用紙

当協議会指定の用紙をお使いください。推薦用紙および要項をご入用の際は、当協議会にご請求ください。

6 推薦締切

2017年(平成29年) 7月31日消印有効

7 受賞者決定まで

推薦締切後、8月下旬に15名の野間読書推進賞運営事業委員からなる選考準備委員会が候補者を絞り、9月上旬に3名の選考委員からなる選考委員会で、団体の部、個人の部と、必要が認められた場合は奨励賞の受賞者を決定します。各賞の受賞者は、原則として2団体(2名)以内とします。

8 選考委員

- 笠原良郎 公益社団法人全国学校図書協議会 顧問
- 小峰紀雄 株式会社
- 小峰書店 社長
- 水川玲子 公益社団法人 日本図書館協会 参与



昨年度受賞者、推薦者のみなさんと野間会長、選考委員

■平成29年度 定時総会開催のお知らせ

- 一、日時 平成29年6月20日(火) 午後3時~4時30分 日本出版クラブ会館 (東京都新宿区袋町6) 03-332671611
- 一、場所
- 一、議事・第1号議案 平成28年度事業報告書と決算報告書
- ・第2号議案 役員改選
- ・第3号議案 平成29年度事業計画書と収支予算書

*5月中旬に議案書(平成29年度年次報告書)と出欠ハガキを送ります。ハガキのご返信と当日のご参加を、よろしくお願ひ申し上げます。

9 結果の通知

受賞者決定後、受賞者とその推薦団体へ、すみやかに通知します。また、すべての推薦団体に、選考結果を文書にてお知らせします。

10 贈呈式

2017年(平成29年)11月7日 日本出版クラブ会館にて 出版界、および図書館界の関係者(団体)、これまでの野間読書推進賞受賞者、「読書推進運動」執筆者のみなさんなどが出席されます。昨年の贈呈式の様子を、当協議会ホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。

■2017年度「絵本ワールド」開催予定

福島、石川、奈良、鳥取につづき 新潟、和歌山も連続開催！

「子どもの読書活動推進会議」が推進する「絵本ワールド」が今年も全国で開催される。

昨年16年以上連続開催している、石川・奈良・鳥取をはじめ6か所で開催された。初開催の和歌山は地域の図書館と行政が中心となつたはじめての試みで、地域の原画展に参加した宮西達也さんや真珠まりこさんなど9名の絵本作家が大集合し、地元飲食店など20店が参加した「マルシェ(市場)」と共催で多くの来場者を集めた。

【開催決定】

第18回 絵本ギャラリー in 奈良

7月29日(土)・30日(日)

奈良県奈良市ならまちセンター

【開催予定】

親と子の絵本ワールド・イン・いしかわ2017

7月15日(土)・16日(日)

石川県金沢市

北國新聞赤羽ホール

絵本ワールド in ふくしま2017

8月12日(土)・13日(日)

福島県郡山市

ビッグパレットふくしま

絵本ワールド in わかやま2017

11月11日(土)・12日(日)

和歌山県有田郡

有田川町地域交流センター ALEC

絵本ワールド in とっとり2017

11月18日(土)・19日(日)

鳥取県倉吉市鳥取短期大学

絵本ワールド in いがた2017

11月19日(日)

新潟県新潟市 朱鷺メッセ



大盛況だった昨年初開催の絵本ワールド in 有田川 (和歌山)

■文部科学省などがフォーラムを開催

子どもの読書活動推進に功績の あった学校・図書館・団体を顕彰

4月23日(土)「子ども読書の日」

表彰状が手渡された。

に東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで、「子どもの読書活動推進フォーラム(UNDP)」の親善大使も務める紺野美沙さんが「心を育てる読書教育振興機構」が開催された。

式典は主催者挨拶のあと、文部科学大臣賞の代表者授与が行われた。優秀実践校は全国134校を代表して、鳥根県松江市立法吉小学校と東京都立鹿本学園。優秀実践図書館は全国50館を代表して北海道せたな町大成図書館。優秀実践団体(個人)は、全国54団体(名)を代表して奈良県のおはなしさんぽに

引きつづき、女優として活動しつつ、20年前から国連開発計画(UNDP)の親善大使も務める紺野美沙さんが「心を育てる読書」と題して講演した。国連の親善大使として、カンボジアやパレスチナなどのアジア・アフリカの各国を訪ねるなかで、世界で初等教育を受けられない子どもたちがいかに多いかを知り、国際協力の大切さを感じたと語った。

また、紺野さんは7年前から、朗読と音楽と映像が一体となつた「紺野美沙子の朗読座」を主宰。読書の大切さを育み、想像力の種を蒔く活動が広がればと、全国各地でパフォーマンスを行っており、最後に映像と音楽とともに、谷川俊太郎さんの『生きる』を朗読して講演を締めくくった。

事例発表と対談では、川村学園女子大学の田中孝一教授をコーディネーターに代表者授与を受けた4団体の代表が「読書好きな子どもを育てるために」のテーマでそれぞれ活動事例を報告した。

また、朗読と音楽と映像が一体となつた「紺野美沙子の朗読座」を主宰。読書の大切さを育み、想像力の種を蒔く活動が広がればと、全国各地でパフォーマンスを行っており、最後に映像と音楽とともに、谷川俊太郎さんの『生きる』を朗読して講演を締めくくった。

事例発表と対談では、川村学園女子大学の田中孝一教授をコーディネーターに代表者授与を受けた4団体の代表が「読書好きな子どもを育てるために」のテーマでそれぞれ活動事例を報告した。

また、朗読と音楽と映像が一体となつた「紺野美沙子の朗読座」を主宰。読書の大切さを育み、想像力の種を蒔く活動が広がればと、全国各地でパフォーマンスを行っており、最後に映像と音楽とともに、谷川俊太郎さんの『生きる』を朗読して講演を締めくくった。



文部科学大臣賞の代表者授与



4月17日～23日の期間、東京メトロ全駅に掲出された「子ども読書の日」特大ポスター

法吉小学校からは「松江市学び方指導体系表」の活用により、子どもの9年間を見通した指導の事例が報告された。

鹿本学園からは、特別支援学校ならではの、障がいを持つ児童・生徒にむけての面出し展示や配架の工夫、電子化の活用などの取り組みで、年間貸出冊数1万1000冊が達成されたと報告された。

せたな町大成図書館からは、地域に根差した活動と子どもの来館を促す努力が報告された。

おはなしさんぽは、家庭文庫から始まり、地域を巻き込んで広がった会の歴史を報告した。

この後、個別に優秀実践学校・図書館・団体(個人)への表彰式が行われた。

5月3日～5日 「上野の森 親子フェスタ 2017」 晴天に恵まれて開催！



5月3日(祝)～5日(祝)に東京都台東区の上野恩賜公園などで開催された、「上野の森 親子フェスタ 2017」(主催：子ども読書推進会議／日本児童図書出版協会／出版文化産業振興財団)。

メインとなる、中央噴水池広場での「子どもブックフェスティバル」は、出版社などがテントで絵本や児童書5万冊を読者謝恩価格で販売するとあつて、連日、多くの来場者で大にぎわい。「いろいろな本がある!」「出版社って、こんなにあるのね。知らなかった!」などなど、来場者からは驚きの声も。青空の下、お気に入りの本を探す親子はもちろんですが、図書コーナー用の本を購入する保育関連施設の方も多かったようです。昨年は1時間を超える

こともあつた会計も、レジを増設するなどの改善をし、だいたい10分前後、もつとも混雑したときでも20分の待ち時間に短縮。日本図書普及の協力で図書カードが当たるくじ引き(3000円以上買った人対象)も実施され、人気を集めました。天気にも恵まれたこと



もあり、3日間の売り上げは約3700万円となりました。各テントではおはなし会や、作家のサイン会、ワークショップ、ライブペイントなども随時行われました。直接作家と話したり、目の前でいきいきとしたイラストが描かれる様子に、子どもも大人も、

そして作家も、楽しい時間を過ごしたようです。作家による講演会は東京都美術館・国立国会図書館国際子ども図書館での開催。鈴木のりたけさん、原ゆたかさん、長谷川義史さんなど人気作家が登場し、創作の裏話を披露しました。国際子ども図書館で行われた内田麟太郎さんと西村繁男さんの対談「人との出会い。絵本の誕生」では、おふたりの出会いと共作絵本『がたごと』がたごと』が生まれるまでのエピソードや、「西村さんをどう生かすか考えて、オンラインユーテキストを書いている」「毎回挑戦状をもらっている感じ。内田さんの予想していること以上のものを描きたい」など、ふたりの絵本づくりを紹介してくれました。

【上丸】国際子ども図書館での内田麟太郎さんと西村繁男さんの対談。
【上】天気にも恵まれ、各テントで本を探す人たちがいっぱい!
【中】レジには「こどもの読書週間」と「本が好き」のポスターも飾られました。
【下】日本児童文学者協会は、作家のサイン会やワークショップなどを実施。日本児童出版美術家連盟は絵本画家の似顔絵描きなど、日本児童文芸家協会は作者の読み語りなどを行いました。

【上】講談社おはなし隊のキャラバンカーでのおはなし会。いま読んでいるのは石井聖岳さんの「かえうた かえうた こいのぼり」です。
【中】リクエストしたイラストがつつぎと書きこまれていく『ボンとハレトモのぼうけん しゅっぱつばばばびじゅつかん』(ひさかたチャイルド) uwabamiさんのキャライラストレーション。
【下】5月下旬刊行『うわのそらいおん』(金の星社)作者・ふくながじゅんべいさんのワークショップでは、読み聞かせとコラボをみんなで。

■東京子ども図書館 石井桃子記念かつら文庫「マップのへや」

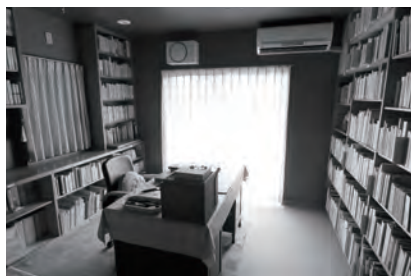
全国の文庫・子どもの読書活動グループの資料の収集と展示を進めています

大人の「かつら文庫」

児童文学作家の石井桃子さんが主宰し、のちの東京子ども図書館の母体ともなった「かつら文庫」。

東京子ども図書館では、石井さんが2008年に亡くなられたあと、残された書齋や文庫を「石井桃子さんのへや」として定期的に公開してきました。建物の改修を経て、2014年4月より、子どもだけでなく大人も利用できる施設として活動しています。

大人を対象としたサービスは、



こまごまとした日用品と壁いっぱいの書架が印象的な「石井桃子さんのへや」

原則として毎週火曜日と木曜日の13～16時。以下の各部屋を説明つきで見学(有料)できます。
かつら文庫

毎週土曜日に開館する、子ども文庫です。読み聞かせや保護者のための子ども読書相談などが行われています。

公開書庫

児童文学者の渡辺茂男さんの蔵書と、日本の児童図書賞受賞作品が収められています。

展示室

子どもの本や読書に関する資料や絵を展示しています。こまごとの創業者 佐藤英和さんが収集した、エドワード・アーディゾーニの原書絵本・カード・イラストなどのコレクションもあります。

石井桃子さんのへや

石井桃子さんの書齋と居室です。デスクには石井さんの筆記用具や使い込まれた辞書などが当時のままに展示されています。初期の「かつら文庫」の写真や、バージニア・リー・バートンが「かつら

ら文庫」を訪れたときに子どもたちの前で描いたイラストも見られます。

マップのへや
全国各地の子どもの読書推進グループの資料を収集、公開しています。

「マップのへや」情報募集中!

東京子ども図書館では、「転居先におはなしのグループがあつたら紹介してほしい」「離れて住んでいる孫の家の近所に文庫があつたら教えてほしい」などの問い合わせを受けることもあり、全国の読書推進グループを名簿化する「子どもの読書活動マップ」の作成を進めています。また、図書館の資料室には、スタッフが出張先で入手したり、各地から寄せられた「文庫だより」や会報なども蓄積されており、これらをあわせて全国の読書活動を見渡せるようにしたのが「マップのへや」です。「マップのへや」には大きな日本地図が掲示されていて、この部屋

に資料がある文庫・グループの名前が県ごとにピンで留められていて、一目で分布状況がわかります。棚には、文庫・グループの資料が都道府県別にファイルボックスに入っています。資料が探しやすいように、グループ名を50音順に並べたリストと、都道府県名で並べたリストも用意されています。

この部屋を訪れた人は、自分の住んでいる地域のグループを探すだけでなく、ふるさとや友人の活動している地域のグループを探したりもしているとのこと。なかには、自分が子どものころに通った文庫の資料を見つけて感謝する人も。一方、まだ資料が少ない地域もあり、「あら、私の住んでいるところ、いろいろな文庫やグループがあるのに」という声があがることもあるそうです。

「マップのへや」の資料は、手作りのパンフレットやレジュメなど図書の状態ではないため、公共機関では収集の対象となりにくく、散逸しやすいものがほとんどです。東京子ども図書館では、子ども読書を取り巻く状況、本やおはなしに出会った子どもたちの様子、草の根のように広がってきた子どもたちの読書活動を伝える貴重な記録として、こうした資料



「マップのへや」の文庫分布地図。全国からの資料提供を待っています!

をこれからも収集・発信していきたいと、全国の文庫や子どもの読書に関わるグループのみなさんからの資料提供を希望しています。「マップのへや」は会場としての使用もできます。ほかの地域の文庫やグループの仲間と「かつら文庫」を見学し、「マップのへや」でおたがいの資料を手にして交流を深める……。そんな企画も楽しいかもしれません。

●資料の提供、「かつら文庫」見学などの問い合わせ先

東京子ども図書館
〒165-0023

東京都中野区江原町1-19-10

TEL 03-3565-7711

FAX 03-3565-7712

http://www.tcl.or.jp/access3.html

優良読書グループの歩み (4)

2016年度の「読書週間」に際して都道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

読書会まどか

代表者 小原 矩子

栃木県宇都宮市

〈推薦〉

栃木県読書推進運動協議会

「読書会まどか」は、宇都宮市立中央図書館で開催された読書講座がきっかけで、有志2名により1979年に発足しました。

現在、会員は10名で、会長1名、会計1名で運営しています。毎月1回、第2月曜日に中央図書館で会合を持ち、読後感想やテキストに關した話しあいを行っています。また、先進地訪問をして見聞を広げたりもしています。

テキストは、会員が推薦した本を選びます。ちなみに2015年度のテキストは、『異邦人』『満水子』『アフリカの日々』『女の男性論』『ティモレオン』『或る「小倉日記」伝』『わたしが棄てた・女』『北秋』『恋しくて』『秘事』『鹽壺

の匙』『涙をたらした神』の12冊でした。

他人が自分と同じ本をどう読んだか、じっくり聞くのは、めつたにないことですので、いつも新鮮に感じています。また、自分では読まない本を読んでみて、知識の広がりを感じます。さらに会員の方の戦前の話なども聞くこともでき、感動を覚え、生活に張りを感じます。月1回の読書会をみんな楽しみにしています。テキストを県内中の図書館から集め、用意してくださる中央図書館のスタッフの方には、本当に感謝申しあげます。

2016年4月には、鎌倉の文学館を訪ねました。鎌倉ゆかりの文学者の直筆原稿、手紙・愛用品などの文学資料が展示されており、文豪の足跡をしのびました。このほか、円覚寺、松岡山東慶寺もまわり、有意義な楽しい一日を過ごすことができました。

「読書会まどか」は、宇都宮市内の合同読書会、市主催の読書推進

講座などの一般市民を交えた行事にも積極的に参加しています。また、栃木県読書グループ大会など県レベルの行事にも積極的に参加して、広く会の活動を広報しています。

さらに、機関誌「文集『そよ風』」を毎年編集、発行し、会員個々の活動の記録や読後の感想を掲載することを通して、読書会まどかの活動を知ってもらえるようにしています。

ところが、会員の高齢化により、会員が少なくなりました。会員募集のポスターを図書館に貼っていただいで、読書の好きな方を少しでも増やしてゆきたいと思っています。



月1回の読書会ではみんなの楽しみ

黒部読書会

代表者 橋爪みち子

富山県黒部市

〈推薦〉

富山県読書推進運動協議会

黒部の地名を冠する「黒部読書会」は、約30年前の1986年に発足しました。当初は年齢層もはば広く、読書会を中心に1か月がまわっているほどに「人の縁」を楽しみ、語りあい、今日にいたっています。

現在は、黒部市文化センターコラーレで毎月1回、会員が集まりやすい日を例会日として、読書会を開いています。年々歳々の視点で独自の魅力をはなつ仲間たちです。県立図書館選定の新しいテキストですが、自分たちのために書かれた本のようにも思え、関連性のある本も調べ、研鑽を重ねています。全員が60歳以上だけに、それぞれの立場や経験からも異なった感想が広がり、新鮮で深い洞察を加味した語らいは、人生観に響くものがあります。毎月の感想文は持ち回りですが、年1回、地元黒部市の3つのグループと合同読書会を開催し、講演会の開



ともに読み、ともに支えて歩んだ30年

催や感想文集「出会い語らい」を刊行しています。

レクリエーションとして、新年会や四季折々の花を愛でての会食を楽しんできました。最近では、短歌人も会に加わり、ことばの美しさに心とらえられています。また、県の郷土史会との文学の旅では、住めば都の心を育んでいただき、感動の紀行でした。

黒部読書会代表になり、「もし、あのとき、あの本に出会わなかったら、いまの私はなかったでしょう」と、それほどに私を支えてくれた読書会です。仲間や市立、県立図書館のみなさまに受け入れられて、その寛大さに包まれ生かされてきたことに、感謝します。

数々の思いがけない表彰や代表という役をいただいたことにも、感謝の念でいっぱいです。同時に、それに応えていけるのかとの不安もあり、参加者の減少の続くときだからこそ、より読書の大切さを呼びかけるべく、地元 黒部市の広報にも載せていただいています。会員それぞれが孫の子守りをしており、「みらいのだるまちゃんへ」や『孫物語』に学んだり、教育や介護・災害からの再生に役立つ読書の喜びを味わっています。

本書で語りあう30年におよぶ読書人生ですが、誠実で人間の誇りを持ち続けてすべての世代に本と出会う意義を広め、「把手共行」のグループ作りに努力していきたいと思います。

えほんの会

代表者 上手 清美
岐阜県飛騨市

〈推薦〉
岐阜県読書推進運動協議会

1979年、保育園主催の講演会で絵本の大切さを知り、子どもたちによい絵本を与えたい、いろいろな絵本にふれさせたいという思いの母親が集まって、12月にこ

の会が発足しました。

当初は自分たちの子どもを対象に、本に興味を持たせるために人形劇、ペープサート、紙芝居、読み聞かせなどのささやかな会を開き、並行して絵本の知識が豊富なメンバーから、絵本や絵本作家について学んだり、手持ちの絵本のまわし読みや図書館から借りたたくさん絵本を読みました。

次第に、「えほんのひろば」と称したこの会におおぜいの親子づれが来てくれるようになりました。そのころからちびっこランド、保育園、小学校、公民館などから声がかかるようになり、みんな夢中で練習し上演しました。

1995年から約10年間は、古



いま自分たちに行けること、絵本の楽しさを伝える

民家で地元の昔話を語ったり、高山での人形劇フェスティバルや飛騨の昔話の会にも参加したり、観劇や講演会にも出かけて上演の参考にしました。結成25周年、30周年の記念公演で、発足当時母に手を引かれ観に来てくれた子どもが、今度は自分の子どもを膝に乗せ観てくれる姿を見ると、会を続けてきた年月の長さを感じました。

しかし、年数を重ねることに会員がおのおのの仕事や家庭に忙しくなり、練習も上演もなかなか思うようにできず、継続がむずかしくなってきました。それでも、子どもたちの真剣な眼差しと笑顔に支えられ年月を思い起こし、なんとか続けたいという思いでいっぱいでした。

そのころ、図書館での読み聞かせやブックスタート事業での協力の話があり、これなら集まる時間が取れなくても個々で練習ができ、絵本や子どもたちに関わることができると、手伝いはじめました。

36年過ぎた現在、手足を動かしたり、台詞を覚えることがままならず、会員も減少して5名となりましたが、絵本への思いは変わらず、今年も、読み聞かせのほか、神岡図書館リニューアルオープン

イベントや、特別擁護老人ホームでの公演、NPO法人主催のおはなし会にも参加する機会があり、たくさん拍手に出会えました。

以前のような上演はむずかしくなりましたが、これからは絵本を通じてひとりでも多くの人に喜んでもらえるよう、そして私たち自身の楽しみと励みのためにも、未永く続けたいと思っています。

平和朗読・首里

代表者 阿波連本紀
沖縄県那覇市

〈推薦〉
沖縄県読書推進運動協議会

○読書グループの成立の歴史

平和朗読・首里は、首里公民館の成人講座「平和朗読講座」を受講後、朗読サークルとして1997年7月に発足し、「平和について考えること」「朗読すること」を活動方針に据え、19年の長きにわたり活動を続けてきた。

○組織と運営

首里公民館を活動拠点に、毎週金曜日の午前10時から12時まで朗読の練習などを行っている。月1回程度、元アナウンサーの金城まり子氏の指導を受けている。

○読書活動の実際

毎年恒例の活動として、2月の新春朗読会、首里公民館まつりでの朗読を行っている。また、6月23日の慰霊の日にあわせ、6月は那覇市を中心とした県南部地区の公共図書館、公民館、小・中学校で、平和学習の一環として「平和朗読会」を行っている。絵本『マブニのアンマー』や被災者の手記などを、爆撃音などの効果音とともに臨場感がでるよう工夫をこらし朗読している。朗読の際には、本で得た知識で独自に台本を組み立て、参加型になるよう意識している。

その他、各メンバーが不定期で小学校、幼稚園などでうちなぐち（沖縄ことば）を交えた読み聞かせ活動を行っている。

○読書グループを継続するコツ

レクリエーションなどでは、会員の持つ特技をおたがいに披露し、意欲の向上を図っている。指あそび、わらべ歌、小道具などを取り入れ、楽しいサークル活動の心がけている。

○これからの希望、抱負など

今後は独自の創作資料をもっと増やし、小学校用・中学校用・一般用などの教材資料を作成していきたい。

■全国S L A被災地支援事業

東北3県の学校図書館を対象に
図書寄贈の希望を募る

全国学校図書館協議会(全国S L A)では、東日本大震災被災地支援として、岩手県・宮城県・福島県内の学校図書館(小学校・中学校・高等学校・義務教育学校・中等教育学校・特別支援学校、公立・私立は問わず)への図書寄贈を実施する。

寄贈図書は、各校が希望する図書(1校あたり10万~20万円を予定)、または第63回青少年読書

学校に直接納品される。

この図書寄贈は、全国S L Aに寄せられた寄付金と、感想文全国コンクール課題図書出版社の協力で行われる。全国S L Aでは、東日本大震災にかぎらず今後も、災害で被災した学校図書館への支援を予定しており、各方面からの寄付金や協力を募っている。

●申込書など詳細問い合わせ先

全国学校図書館協議会

〒112-0003
東京都文京区春日2-2-7
TEL 03-3814-4317
FAX 03-5804-7546
<http://www.j-sla.or.jp/>

■J B B Y がポロニーヤ国際児童図書展に出展

日本の絵本の魅力と現在を
世界へ発信!

日本国際児童図書評議会(J B B Y)は、今年4月3~6日にイタリアで開かれた世界最大級の児童書フェア「ポロニーヤ国際児童図書展」に、在イタリア日本国大使館と共催でブース出展をした。

日本語が読めなくてもわかる最新の絵本50冊を展示する。「にほんのえほん rhonnoehon」では、来場者が実際に絵本の手を取ることで、日本の絵本の魅力をお

ピール。日本国内の絵本美術館、絵本専門店、図書館、絵本情報雑誌などの紹介パネルとともに、日本の絵本文化の現在を伝えた。

また、オープニングレセプションには在イタリア大使も参加。広松由希子さん、兼森理恵さん、ジュンコ・ヨコタさんの講演会や加藤休ミさんのライブペインティングも好評で、多くの参加者がブースに集まった。



ゆったりと絵本を楽しんでもらえる JBBY ブースはイタリアで大好評!

ポロニーヤ国際児童図書展終了後、展示された絵本とパネルは、ミラノの無印良品店舗や、トリノの東洋美術館などを巡回する予定という。

事務局報告(4月)

- ☆3日 荒井良二さんの第59回こどもの読書週間ポスター原画をアドシステムに返却
- ☆7日 第60回 こどもの読書週間ポスターデザインについて杉浦康平さんと打ちあわせ
- ☆7日 第91回 読書週間ポスターイラスト募集について日本デザイナー学院と打ちあわせ
- ☆7日 大光監査法人に「平成28年度収支決算書」の作成を依頼
- ☆7日 機関紙「読書推進運動」593号、別冊付録「読書週間行事報告」一覧入稿
- ☆10日 機関紙「読書推進運動」593号、別冊付録
- ☆12日 「子ども文庫助成」について伊藤藤忠記念財団と打ちあわせ
- ☆13日 第103回 全国図書館大会第1回実行委員会に出席
- ☆14日 機関紙「読書推進運動」593号、別冊付録
- ☆18日 「上野の森親子フェスタ」運営委員会に出席
- ☆18日 絵本文化推進会議運営委員会に出席
- ☆19日 内閣府への平成28年度事業報告について講談社社長室と打ちあわせ
- ☆20日 せとよたかずひこさんへ「子ども読書の日ポスター」原画返却
- ☆21日 西村俊男監事に「平成28年度収支決算書」の監査を依頼、その後設置敬一監事、佐藤潤一監事に順次監査を依頼
- ☆23日 5月11日 「第59回 こどもの読書週間」
- ☆23日 「子どもの読書活動推進フォーラム」に出席
- ☆25日 「大震災出版対策本部運営委員会」に出席
- ☆25日 「平成29年度 第1回 常務理事会」を開催、出席5名、欠席4名
- ☆26日 平成28年度 事業報告書と平成29年度 収支決算書を審議、承認
- ☆27日 平成29年度 年次報告書入稿

●編集部 & 事務局の
ひとこと

●数年前から、大学時代の友人たちと定期的に集まっています。年齢と経験を重ね、ようやく、おたがいに抱えている思いや悩みを語り、聞くことができるようになったからでしょうか。どんな仕事をしているのか、どんな家庭を築いているのか、そんなそろり気になる親の介護への心構えなど、話すことはつきません。

●思春期の子どもと暮らす友人の悩みに、「子どもとスマホ」があります。本当は持たせたくないけど、学校や部活の連絡網がLINEのためどうしても必要なので、フィルターをかけて通信容量を最小にし、一日の操作時間を時間を決めていっている友人は、「自分のはあとの年齢のとき、なにせすばーっとしている時間を過すうちに、いま自分がやりたいことが出てくる、それがとても大切だった。スマホですぐに情報を得る、だけれかとながることができるのは便利だけど、それだと自分の望みをゆつくり確かめる時間がなくなるんじゃないかな。子どもは文句ブーだだけ」と言っていました。

●かつら文庫をご案内いただいたスタッフさんは、偶然にも私の父と一緒に仕事をしたことのある方でした。当時の父は、いまの私よりちょっと年上くらい。職場では家族のことも話していたそうです。スマホもケータイもまだない時代の父の悩みは、「高校生の息子と一緒にキヤッチボールがしたいけど、相手にしてくれない」というのんびりしたものでした。もう少しシリアスな悩みもあったと思うのですが……。(伸)